錦城高校新聞

題字 井口 文章

再刊 第３４１号

印刷・発行

錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

一面：大盛り上がりのミニフェスを彩った部活・同好会・実行委員に取材！
二面：学年レクのハイライト＆実行委員の声をお届け！

色鮮やかな魅力溢れる２日間

ミニフェスをプレイバック

9月28日(月)、29日(火)に行われたミニフェス。当日に発表した部活や開催を支えてきた実行委員に話を聞いた。（編集部共同取材）

第二体育館でステージを披露するダンス部。
このほかにも、さまざまな出し物が錦城生を魅了した。

鮮やかなダンスで魅了

ダンス部によるパフォーマンスは第2体育館で行われた。感染防止の観点から、観客は距離を開けての着席、歓声の禁止を徹底した上での実施。ブレイクダンスやヒップホップなど、様々なジャンルに分かれた数人のダンスと約100人の部員による息のあったダンスが観客を圧倒。静と動のキレが組み合わさり常にかっこいいシルエットのパフォーマンスと客の手拍子が一体となってステージを作り上げていた。

観客の一人は「男子のかっこよさ、女子のかわいらしさがダンスによく表れていて、すごいと思いました」と話していた。

自慢の作品を上映

映画研究部はホールで「映研ロードショー2020」の発表を行った。最初に上映されたのはドキュメンタリー作品の『校則改革～携帯を巡る先輩方の努力～』。携帯持ち込み認可に向けての錦城生の動きに迫った作品で、知られざる錦城の歴史に多くの観客が見入っていた。続く55回生の先生方による卒業メッセージ作品の『KINJOWARS』や『新宝島』のMV、各映画の発表の間に上映された『映画泥棒』や『ビックマック』のCMでは、ユニークな作品に会場中が笑顔でいっぱいに。最後に発表された『ソリストに送る四重奏』では、等身大の高校生ならではの複雑な心境を顕著に表していた。どの作品も細部まで工夫が施されていた。

アフリカの古代種を展示

生物部は新校舎5階の理科室Bで生物の展示を行った。多種多様かつ珍しい生物が見学できたそうだ。それぞれの生物には部員が書いた説明書きが添えられており、品種の名前や特徴が詳しく書いてある。また部員の王東良くん(1B)は「あらゆる物を吸い取る化け物だというアフリカの古代種であるプロトプテルス・エチオピクスが今回の展示の目玉です」と話す。今までに濾過機を4回破壊し、水温計をかみ砕いたことがあるそうだ。普段は見ることのできないような生物と触れ合える貴重な機会となった。

動物と触れ合っている様子

立て続けに大技披露

体操部は第1体育館で6つの演目を披露した。3年生による発表では、6人同時に後方宙返りをする場面があった。着地した瞬間には、体育館が大きな歓声に包まれる。また、大技が連続で披露された。1から3年生全員による5つ目の演目の終盤、立て続けに技が決まると、会場はこの日最後の演目では部員全員と池神先生がロイター板を使い前方宙返りをする。終盤にはひねりを加えるなどさらに難易度の高い技が連続で決まり、観客の拍手が鳴り止まなかった。

披露された完成度の高い演技は会場にいたすべての観客を虜にしていた。

＊＊＊

9月28日(月)、29日(火)にわたって開催された「ミニフェス～Neo style～」は、例年にない形式にもかかわらず大盛り上がりで幕を閉じた。距離を開けて着席したり、歓声の禁止を徹底したりなど、新型コロナウイルス感染防止のために様々な工夫をしての実施。開催に向け尽力してくれた実行委員や先生への感謝を忘れずに、これからの学校生活を支えてきた実行委員に話を聞いた。

ミニフェスを支えた立役者

錦城祭実行委員長の渡邊沙羅さん(2A)と副実行委員長の清水凜音さん(2C)に話を聞いた。新型コロナウイルスが流行している中でのミニフェスの開催となったが、無事に2日間乗り切れたことにほっとしたそう。

ミニフェスでは感染リスクを抑えるため、間隔をあけての鑑賞、公演中は拍手のみで声を出してはいけないなどのルールが決められた。清水さんは「コロナ感染対策としての人数を制限するためのチケット配布や、密を避けるために会場内のスズランテープを各団体ごとに貼り直すことが特に大変でした」と当日の様子を振り返る。

運営の大変さを語る２人

実行委員は決めるべきルールが多く、柔軟に対応しなければならなかったそう。渡邊さんは「準備期間が短かったこともあり、生徒全員とのルールの共有や、実行委員会本部の中でも当日の動きが確認しきれていませんでした」と反省を語る。

最後に2人は「例年と違う形での開催となったので、やることがとても多かったですが、みんなで協力して乗り切ることができたので良かったです。今年の雰囲気を来年にも伝えていってほしいです」と実行委員にメッセージを送った。（甘）

錦城祭中止でも形に残す努力を

錦城祭実行委員会パンフレットチーフの田中雪菜さん(2D)に話を聞いた。田中さんはミニフェスを振り返って「いいことも悪いこともいろいろあったけど、みんな楽しんでくれていたし、私も楽しめたので良かったです」と語る。「パンフレット作りでは、何とか無事に完成まで持っていくことが出来て安堵しました」と田中さん。また、ここまでの努力が無駄にならずに、形になったのも嬉しいことの一つだという。パンフレットの内容については、校内見取り図について「去年のものとは趣を変えて、平面から立体にしてみました」と話す。完成品が出来るまでには、業者とのやりとりが多くあったが、そこで試作品を何度も見てから完成品を見たため「やりきった」という思いが強かったという。

人目をひく渾身の一作

最後に来年のパンフレット係になる生徒に向け「来年は少なくとも今の状況とは違っているはずなので、今年のものよりも面白いパンフレットを作ってもらいたいです」とエールを送った。

錦城祭実行委員会本部の門飾担当の仲田未希さん(2G)は今年のミニフェスで大変だったことについて「例年と異なり、自分の係だけでなく全体も見なければならないという点と、ミニフェスを実施するにあたっての変更が大変でした」と話す。また、前例のないミニフェスという形での開催について「お客さんを入れられなかったことは残念でしたが、例年より自由に動けたのはよかったです」と感想を述べた。

毎年美術部と本部の門飾担当が協力して制作する予定だった校門近くの入場門。今年は看板に変更になった。その経緯について仲田さんは「今回、お客さんが入らないので門を制作しないという選択肢もあったのですが、形に残したいと思い看板を作ることにしました」と語った。

最後に仲田さんは「錦城祭実行委員は1番自分たちで決めることが多い委員会だと思うので、今年の分もやりたいようにやってほしいです」と、来年の錦城祭実行委員にメッセージを送った。（桜・甘）

クラスの団結を形に

一足早く廊下アートが完成した2年D組。制作を中心で進めた錦城祭クラス企画係の宮寺結瑞さん(2D)にインタビューした。

旧校舎5階の2Dの廊下に貼ってある廊下アートは、カラフルな色の手型を白い模造紙中につけたデザイン。錦城祭のクラス企画では目隠しをした状態で手さぐりで行う迷路をクラス企画で行う予定だったため、このモチーフにしたそうだ。

また、今年の錦城祭のテーマだった『Make it colouful』に合わせて、手型は黄色やピンク、青、緑など約10色を使って華やかに彩られている。制作できる時間が限られている中、2年生運動会の待機時間やその日の放課後などを使って1日で作成を終えたそうだ。宮寺さんは「クラスのみんなの協力あってこその作品なので、完成したときには達成感がありました」と振り返った。

旧校舎5階の廊下を彩る廊下アート

むらさき草

「良い結果は良い準備から」という言葉がある。これはとても大事なことだと痛感したことがある▼中学生時代、部活の遠征で電車を乗り継いだ後に30分歩いて相手チームの学校へ向かわなければならないということがあった。しかし、道の下調べをしておらず、見知らぬ場所で迷子になってしまい試合時間に間に合わなかった▼道の下調べだけでなく、小テストの準備や進路調べなど、多くのことには「準備」が必要だ。しかし、すべての「準備」を完璧にこなすことは簡単ではない。それゆえ、時間がないことを理由に行動を準備の段階から諦めるといった経験があるだろう▼そんな時に目にしたのが「睡眠により日常生活を効率化する」という題材を扱った記事だった。そこで印象に残ったのが「良い睡眠が良い生活リズムを作る」という言葉。これを機に乱れていた生活リズムを正し「準備」の計画を立てるようになった▼最初の立て方では急な予定変更などに対応できず、生活リズムを崩してしまうことがあった。この問題を解決するために余裕を持った予定を立てて計画に常に「空き」をつくることにした。すると、予定変更に対応しやすくなり、より良い「準備」ができるようになった▼計画を進めていく中でふと感じたことがある。「良い準備」が「良い結果」につながるようになると「もっと良い結果を出したい」という意欲が生まれ、さらに「良い準備」にする。「良い準備は良い結果から」でもあるのだ▼また、計画に余裕をもって進めると「空き」を好きなことに使えることも分かった。「空き」は予定の変更に対応するだけではなく、自分の生活をより楽しくしてくれるだろう。今後も「空き」の時間を使い、生活を彩っていきたい。（抹）

大会報告

野球部
▽9月21日(月)
秋季東京都大会
第13ブロック
二回戦敗退

陸上部
▽9月25日(金)～27日(日)
東京都新人大会
・女子5000m競歩
小倉優凜（2L）
1位
関東新人大会出場決定
・女子やり投げ
貝瀬彩花（2A）
5位

バスケ部
▽2020 Tokyo Thanks Match
9月13日(日)
女子二回戦敗退
9月20日(日)
男子二回戦敗退

バレーボール部
▽9月22日(火)、27日(日)
全日本バレーボール高等学校選手権大会
男子3回戦敗退

フットサル部
▽10月3日
東京都ユースフットサル1部リーグ
男子2回戦進出

ソフトボール部
▽10月4日(日)
高体連秋季新人大会
4支部予選通過
都大会出場決定

大会報告を募集しています！
大会に出場したら
近くの編集委員または
7階の生徒会室まで。